

山本純子詩集「カレンダー」
 2004年にH氏賞を授与された作者の最新詩集。このところ作者は「少年詩集」と銘打った作品に力を入れていて、今回はその総集編のよう。副題に「学校のはる・なつ・あき・ふゆ」とあって、季節に合わせて作品が配されている。
 以下は「海」の全行。
 〈海水浴の帰り道〉
 手を引いていた娘が
 急に胸をつまらせて
 アとわかれるのが さみしい
 と、立ちどまる
 私も昔そうだった
 波の音が遠ざかる
 ちよつどのあたりで
 やまもと・じゅんこ、大津市在住（東京都豊島区巢鴨1の14の5、第一松岡ビル3階・仮説

詩集

さみしいユーモア

社、2200円）
 君野隆久詩集「十二の月、十の道」
 奥付に「1962年東京都生まれ」とある作者の第4詩集。前半に4月から翌年3月までの「月」を念頭においた作品、後半はコロナ禍のなか綴られた「道」を背景にした作品が収められている。作者の読書ノート的な意味合いもふくめて、いずれも味わい深い。変形横長の、版元による丁寧な造本にも惹かれた。
 以下は「運河」の結び。
 〈コンクリートのアーチの下でイいる運河が見たい
 力を貯えた水が
 一言も発しない
 深い運河〉
 きみの・たかひさ。京都市在住（京都市北区上賀茂豊田町40

の1・青磁社、2640円）
 吉田健一詩集「砂宇宙」
 最後は奥付に「昭和25生まれ」とある作者の、おそらくは第1詩集。さみしいユーモアにあふれた作品がいい。「このこと足だけがあるいてゆくよ」と始まる「足」はその代表。
 以下はその「足」の結び。
 〈足よ 長い間歩いて来たんだ
 足だけの足よ
 やつれ果てた笑われ者の足よ
 ここはもう大地の果てだよ
 歩いてはゆけぬフだよ〉
 よしだ・けんいち。大阪府泉南郡在住（大阪市中央区内平野町2の3の11の202・潯標、2200円）
 （細見和之・詩人、大阪文学学校校長）

左の記事を読んで、詩の中に入る言葉を考えましょう。

- 1 空欄アに入る言葉を、ひらがな2字で書きましょう。
- 2 空欄イに入る言葉を次の中から選んで、記号で書きましょう。
 ①渦巻いて ②淀んで ③流れて ④荒れて
- 3 空欄ウに入る漢字1字の言葉を、記事の中から抜き出して書きましょう。

①

②

③